

学校教育目標	「勉学・健康・自律・礼儀・奉仕」の精神のもとに「知・徳・体」の調和のとれた健全な生徒の育成を目指す
《本年度の重点目標》	
《重点目標1》「知・徳・体」の調和のとれた健全な生徒の育成を推進する	
《重点目標2》 活気に溢れ、生徒一人一人が生き生きと明るく、「安全で安心」な学校づくりを推進する	
《重点目標3》 家庭及び地域社会に「開かれた学校」、保護者、地域から愛され、信頼される学校づくりを推進する	

◆記入にあたっての留意事項

- 取組については、各学校の重点目標達成のための方策に応じて設定すること。
- 「取組」「評価項目」「評価項目についての重点的取組」を設定する際には、次の6点をいずれかに必ず位置づけること。
 - ①学力向上に関する取組
 - ②体力向上に関する取組
 - ③心の育ちに関する取組
 - ④いじめ問題解決に関する取組
 - ⑤特別支援教育推進に関する取組
 - ⑥あいさつ日本一に関する取組
- 小・中学校においては、①学力向上に関する取組、②体力向上に関する取組、③心の育ちに関する取組の部分の記述について、スクールプランと整合性を取ることを。
- 評価の例 A…目標を十分に達成できた B…目標をほぼ達成できた C…あと少して目標が達成できた D…目標達成までいかなかった

取組	評価項目	評価項目についての重点的取組	評価	○成果と◆次年度の改善点
学力向上に関する取組	<p>【授業改善】 ◇<生徒質問紙(57)>「授業では、学級の友達とで話し合う活動をよく行っていたと思いますか。」について、肯定的な回答をした生徒の割合[70%以上]</p> <p>◇<生徒質問紙(62)>「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。」について、肯定的な回答をした生徒の割合[70%以上]</p> <p>◇<生徒質問紙(15)>「学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか。」について、肯定的な回答をした生徒の割合[30%未満] (肯定的な回答とは、1日当たりの読書時間が10分未満の生徒の割合)</p> <p>【補充学習】 ◇<生徒質問紙(39)>「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか。」について、肯定的な回答をした生徒の割合[75%以上]</p> <p>【家庭学習】 ◇<生徒質問紙(14)>「学校の授業時間以外に、普段(月曜日～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。」について、1日当たりの勉強時間が1時間以上の生徒の割合[50%以上]</p>	<p>○授業構想シートを活用し、「めあて」「まとも」「話し合い活動」「振り返り」を確実に行うようにする。また、「めあて」「まとも」「話し合い活動」「振り返り」を確実に実施できるよう、授業の流れや今何をしているのかを視覚的に捉えられる「授業の流れボード」を全授業で提示する。</p> <p>○一単位時間の授業の中で思考を深める活動の際には、4人組による「話し合い活動」を全職員で取り組む。</p> <p>○学期に1回、全教員が授業構想シートを持ち寄り、それを基にした研修を行い、授業改善を図る。また、代表者授業などの授業研究においては、授業参観シートを活用し、参観の視点を焦点化した協議を行う。</p> <p>○「学期に一冊読破」を目標に、各学年・学級で朝読書の活動に取り組む。また、朝読書担当者や学習委員会が連携し、学級文庫の充実と生徒が一冊でも多く本を読めるような取組を行う。</p> <p>○毎日、放課後20分間の補充学習の時間「富野タイム」を継続実施する。全教員が各教室に入り、基礎・基本的な問題について指導する。</p> <p>○富野タイム担当者と学習委員会とが連携し、学期に1度、学習してきた内容をテストする「富野タイムコンテスト」を実施する。</p> <p>○学力定着サポートシステムを活用し、生徒の学習定着度を測る。そして、富野タイム担当者は、生徒の実態に応じて適宜学習する課題を検討・準備する。</p> <p>○試験前1週間は、「放課後質問教室」を全教員で行い、勉強が分からないと訴える生徒のニーズに対応する。</p> <p>○生徒が富野ノート担当者の用意した1日1ページ自主学習ノート「富野ノート」の取組を毎日行い、授業時間以外での学習の習慣化を図る。また、学力定着サポートシステムの基礎・基本問題を活用した課題を課すことで、より課題に取り組みやすくする。</p> <p>○家庭学習の充実を図るため、保護者会や家庭訪問時に、「家庭学習への協力のお願い」として啓発活動を各担任が行う。</p> <p>○家庭で学習時間を確保できない生徒に対しては、富野タイムや放課後等の時間を使って補充学習を行うことで授業時間以外の勉強時間を確保する。</p>	A	<p>○生徒質問紙(57)については、肯定的な回答をした生徒の割合が増加し、学期末アンケートでは目標を達成することができた。</p> <p>◆学力体力向上推進担当者が、授業構想シートを活用しながら、「話し合い活動」の質の向上に重点を置いた授業研修を行う。</p> <p>○生徒質問紙(62)については、目標を達成することができた。全教員が「振り返りの三視点」を活用することで「振り返り活動」のベクトルをそろえることができていく。</p> <p>◆学力体力向上推進担当者が、生徒の「振り返り」の評価基準を作成し、各教科の評価に組み込むことで、ベクトルをそろえていく。</p> <p>○生徒質問紙(15)については、目標を達成できた。</p> <p>◆各学年の授業力向上推進部が、生徒会学習委員と連携し、生徒が読んだ累計ページを競う「朝読書コンクール」を実施し、朝読書の活性化を図る。また、全教員が、「よい学び方」ハンドブックを適宜活用し、読書の必要性を生徒に伝えていく。</p>
体力向上に関する取組	<p>【授業改善】 ◇<生徒質問紙(19)>「体育の授業は楽しいですか。」について、肯定的な回答をした生徒の割合「[85%以上]</p> <p>【家庭での運動について】 ◇<生徒質問紙(14)>「家の人から運動やスポーツを積極的に行うことをすすめることがある。」について、肯定的な回答をした生徒の割合[50%以上]</p> <p>【運動習慣】 ◇<生徒質問紙(6)>「学校の体育の授業時間以外でも運動やスポーツを行っている。(※60分以上行う割合)」について、肯定的な回答をした生徒の割合[70%以上]</p>	<p>○北九州市体力向上プログラムを活用したジャンプアップ運動として、学習する競技や種目に応じた補強運動や柔軟体操を行い、体力アップ、興味関心の向上を図る。</p> <p>○1校1取組として、年間を通してなわとび運動(音楽に合わせて、なわとび級の認定)を行う。なわとびが苦手な生徒には跳運動の補強としてトランポリンを活用することで挑戦意欲を高めるとともに、筋力と持久力アップを図る。</p> <p>○ヘリソンモデルを活用した授業規律改善を行い、生徒が主体的に授業規律を守ることを相互評価していく。</p> <p>○運動部の加入率を上げるため、対面式での部活動紹介や新入生の保護者への啓発活動を入学式後の学活のときに1年担任で行う。</p> <p>○家庭での運動やスポーツの推進を促すために、学期に1回、保護者会の時に「家庭への協力とお願ひ」として啓発活動を各担任が行う。</p> <p>○体育科が「基礎トレーニングメニュー」を作成し、長期休業中に課題を課し、取り組ませる。また、その記録回数を集計し、校内掲示や表彰を行うことによって達成感を持たせる。</p>	B	<p>○生徒質問紙(19)については、昨年度よりも肯定的な回答をした生徒の割合が増加し、到達目標に迫ることができた。</p> <p>◆次年度も、「ヘリソンモデル」を活用した授業規律改善を継続して行っていく。そして、北九州市体力向上プログラムを活用し、学習する競技や種目につながる補強運動や柔軟体操に取り組ませ、楽しく効果的な体づくりを行うとともに、生徒の「できるようにになりたい」「うまくなりたいたい」という気持ちを高めていく。また、実技小テストの結果をもとに、競技や種目に応じたグルーピングを行い、生徒同士の「教え合い活動」を行っていく。</p>
心の育ちに関する取組	<p>【授業改善】 ◇<生徒質問紙(10)>「将来の夢や目標を持っていますか。」について、肯定的な回答をした生徒の割合[75%以上]</p> <p>【授業改善】 ◇<生徒質問紙(1)>「自分には、よいところがあると自覚していますか。」について、肯定的な回答をした生徒の割合[75%以上]</p>	<p>○道徳の時間に内容項目「希望と勇氣、克己と強い意志」に関する教材を学期に2回重点的に取り組み、夢を持つことの大切さや目標を達成する素晴らしさを教えていく。総合的な学習の時間に1年生「職業調べ」、2年生「高校調べ」、3年生「進路学習」を系統立てて行い、3年間見通しを持って全教員で夢や目標を持つことの大切さを指導していく。</p> <p>○日頃から、教師が将来の夢や目標について話をしていくことで、生徒が将来の夢や目標を持てるよう指導していく。</p> <p>○北九州市子どもつながりプログラムを活用した授業を行い、対人スキルアップを図る。</p> <p>○生徒の学習意欲や自尊感情、向上心などを伸ばすために、生徒が日頃から取り組んでいることに対して、教師が積極的にほめる取組を行う。</p> <p>○スクールカウンセラーを活用し、1学期は友人関係の築きや自己抑制力に関すること、2・3学期は自己理解・自己肯定感を高める学習を各学年3回行う。</p> <p>○道徳の時間に同和問題やLGBT等に関する教材を入れ、重点的に取り組む。また、生徒が振り返りを行うことで、成長を感じたり、これからの課題や目標を考えることができるように工夫をし、全教職員が生徒と寄り添いながら、進めていく。</p> <p>○自尊感情や自己有容感を高めるために、行事や学級活動を通じて、生徒相互がお互いを認め合い、生徒の主体的な活動の場を増やす。</p>	A	<p>○生徒質問紙(10)については、肯定的な回答をした生徒の割合が増加し、学期末アンケートでは目標を達成することができた。</p> <p>◆全教職員が、日頃の学校生活において夢や目標をもつことの大切さを生徒に話をしていく。また、各教科で成就感や達成感を持たせられるような授業づくりを行う。さらに、道徳の授業では、生徒の実態に合わせて少人数指導やIT指導を行い、内容項目「希望と勇氣、克己と強い意志」に重点を置く。</p>
いじめ問題解決に関する取組	<p>◇いじめの未然防止、潜在化するいじめの早期発見・早期対応に努め、いじめゼロを目指す。</p> <p>◇生徒個々の教育支援を要する生徒の教育ニーズに応えるため、実態を的確に把握し、校内支援体制の整備、関係機関や家庭と連携する。</p>	<p>○生徒アンケートを学期に一度実施し、実態の把握に努める。</p> <p>○「登校する生徒を笑顔で迎え、下校する生徒を笑顔で送る」ことを実践する。</p> <p>○いじめ等の早期発見、早期対応のために、定例の教育相談に加え、気になる生徒への随時相談を実施する。</p> <p>○スクールカウンセラーと担任及び学年職員との連携を図り、組織的に対応する。</p> <p>○必要に応じてスクールソーシャルワーカーとの連携を図りながら、効果的な対応を検討し、生徒・保護者の支援を行う。</p> <p>○生徒指導委員会、特別支援教育委員会等特別な支援を要する生徒についての情報交換を行い、必要に応じて職員会議等で共通理解を図り、適切な対応、支援ができるようにする。</p>	A	<p>○生徒アンケートは計画通りに実施し、アンケートで得た実態を教育相談に生かすことができた。また、生徒指導委員会や学年会議で情報を共有し、ベクトルをそろえることができた。</p> <p>○毎朝のあいさつ運動により、生徒を笑顔で迎え入れることは実践できた。また、登校してくる生徒の表情や様子が把握でき、いじめの早期発見・早期対応につなげることができた。</p> <p>◆専任生徒指導主事を中心に、各学年が連携し、「笑顔で送り出す下校指導」を行ってきた。次年度も継続して取り組んでいく。</p> <p>○スクールカウンセラーと学級担任、学年職員が情報交換や対応方法について連携協議し、効果的な生徒対応へつなぐことができた。</p> <p>○各教科担任が、共通理解に基づく授業の工夫や支援を実践し、生徒は徐々に落ち着いた生活ができるようになった。</p>
あいさつ日本一に関する取組	<p>◇「あいさつ日本一」を目指し、既存のあいさつ運動を継続することに加え、小中連携した取組を実施する。</p> <p>◇家庭・地域・関係機関との積極的な情報交換により、綿密な連携を図る。</p>	<p>○部活動生徒が中心となって、毎朝あいさつ運動を行う。</p> <p>○毎月10日、20日、30日を「笑顔かがやくあいさつデー」とし、校区2小学校の児童、各校のPTAの方々とともに児童生徒の登校時間にあいさつ運動を行う。</p> <p>○学校開放週間や学校行事における学校開放及び学校だより・学校ホームページ等による情報発信を積極的に行う。</p> <p>○地域行事や体験学習等により地域との交流を深める。</p> <p>○生徒会活動や部活動における地域での自主的奉仕活動の取組を行う。</p>	A	<p>○校舎内外を問わず、あいさつをする生徒が増え、来校者へのあいさつも積極的に行うことができた。また、自主的にあいさつ運動に参加する生徒が増えた。</p> <p>◆自主的に元気なあいさつができるように生徒会活動等との連携を検討していく。</p> <p>○「笑顔かがやくあいさつデー」は、確実に実践することができた。PTA・生徒会・部活動生徒等が、正門で元気よくあいさつをすることができた。</p> <p>◆「笑顔かがやくあいさつデー」は、小中一斉に実施しているが、相互の取組の様子が分かりづらいため、実感できる小中合同の取組を検討する。</p> <p>○ICTサポーターの協力を得て、定期的にHPの更新ができた。また、毎月の学校通信により、学校の様子等を伝えることができた。</p> <p>○部活動生徒が、成果発表の場として校区の行事に参加した。地域の方々に生徒が頑張る姿を見てもらう絶好の機会となった。</p> <p>○生徒が、地域の保育所等での体験学習を行った。生徒にとって貴重な学びの場となるだけでなく、地域との交流を深める機会となった。</p>